

# インターネットを用いた言語教育の可能性

## -Web教材とリアルタイム通信-

東京外国語大学  
林俊成

# 内容

- インターネットを用いた言語教育の可能性
  - 前書き
  - Web教材開発
    - TUFSS言語モジュール
  - リアルタイム通信による言語教育の利用
    - 日本・台湾遠隔協働授業
    - インターネットを用いた日本語教授法
  - ネットワークと言語教育の今後の展望

# 前書き

- 日本に立脚してのインターネットを用いた言語教育の可能性
  - CALL教材の開発評価
    - 豊富なリソースによるWeb教材開発
  - 言語交換による協働授業
    - 日本語学習者と中国語学習者による協働授業の可能性
  - インターネットを用いた日本語教授
    - 海外の日本語学習者への日本語教育の可能性

# CALL教材の開発

## TUFS言語モジュール

- その特徴

- アジア諸言語を含む、二十数国地域の言語教材
- 発音・会話・文法と語彙の四つのモジュールで構成
- 最大限のデータ再利用の設計
  - XMLデータ構造の利用

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/>

- SCROM2004規格対応済み
  - 今現在Moodle上運用中

発音モジュール  
会話モジュール  
文法モジュール  
会話モジュール

# TUFS言語モジュールの教材設計

## 会話モジュール 自習者用教材デモ

TUFS LANGUAGE MODULES *dialog*
言語学情報拠点 | 言語モジュール(多言語版) | e-Learning | HOME

学習者用

東外大言語モジュール | モンゴル語 | 会話 | 学習者用

モンゴル語

# demonstration

**■ 学習モデル**

- ▶ 聞く・話す  
ロールプレイ
- ▶ 読む・話す  
音読
- ▶ 聞く・書く  
ディクテーション
- ▶ 読む・書く  
コピーイング

📄 学習したいユニットを好きな学習モデルと組み合わせましょう

📄 学習モデルに関する詳しい説明は、**利用の手引き**をご覧ください

何をやりたいかで選ぶ

情報のやりとりをする	人に働きかける	人と付き合う	考えや感情を述べる
金額をたずねる ▶▶▶▶▶	提案する ▶▶▶▶▶	挨拶する ▶▶▶▶▶	予定を述べる ▶▶▶▶▶
経験をたずねる ▶▶▶▶▶	依頼する ▶▶▶▶▶	感謝する ▶▶▶▶▶	意見を述べる ▶▶▶▶▶
程度をたずねる ▶▶▶▶▶	許可を求め ▶▶▶▶▶	注意をひく ▶▶▶▶▶	好きなものを述べる ▶▶▶▶▶
時間をたずねる ▶▶▶▶▶	しなければならぬと言 ▶▶▶▶▶	自己紹介する ▶▶▶▶▶	好きな行動を述べる ▶▶▶▶▶
数字をたずねる ▶▶▶▶▶	禁止する ▶▶▶▶▶	謝る ▶▶▶▶▶	理由を述べる ▶▶▶▶▶
場所をたずねる ▶▶▶▶▶	指示する ▶▶▶▶▶	ものをあげる ▶▶▶▶▶	条件をつける ▶▶▶▶▶
特徴をたずねる ▶▶▶▶▶	しないでくれと言 ▶▶▶▶▶	さよならを言う ▶▶▶▶▶	妥協する ▶▶▶▶▶
手段をたずねる ▶▶▶▶▶	しなくともよいと言 ▶▶▶▶▶	状況を尋ねる ▶▶▶▶▶	希望を述べる ▶▶▶▶▶
能力をたずねる ▶▶▶▶▶	招待する ▶▶▶▶▶	招待する ▶▶▶▶▶	
順序をたずねる ▶▶▶▶▶	助言する ▶▶▶▶▶	人を紹介する ▶▶▶▶▶	
比べる ▶▶▶▶▶	要求する ▶▶▶▶▶		
理由を述べる ▶▶▶▶▶			
例をあげる ▶▶▶▶▶			
しなければならぬと言 ▶▶▶▶▶			
しなくともよいと言 ▶▶▶▶▶			



🖨 ページが表示されました
🌐 インターネット

# 日本語会話モジュールの利用事例

- 目的
  - 担当教師による観察に加えて、学習者のアクセスログに基づく、教材利用実態のより体系的な理解
  - 上記の結果をふまえた、教材作成へのフィードバック
- 教材の利用者(学習者)
  - 台湾にある大学の学生(日本語専攻1年生) 20数名
  - 日本語学習歴:6ヶ月
- 学習環境
  - 教材は日本のe-Learningサーバーに設置
  - 自律学習型、教室外の自由利用
    - 講義内容と無関係に利用
  - 担当教師が週に2課学習するよう指導
- 利用期間
  - 約4が月間

# 採集データ

## ・アクセスログ

- 毎回の学習時間
- 利用した各ページの利用時間
  - 1ページの利用時間が15秒以下と20分以上のデータを除く

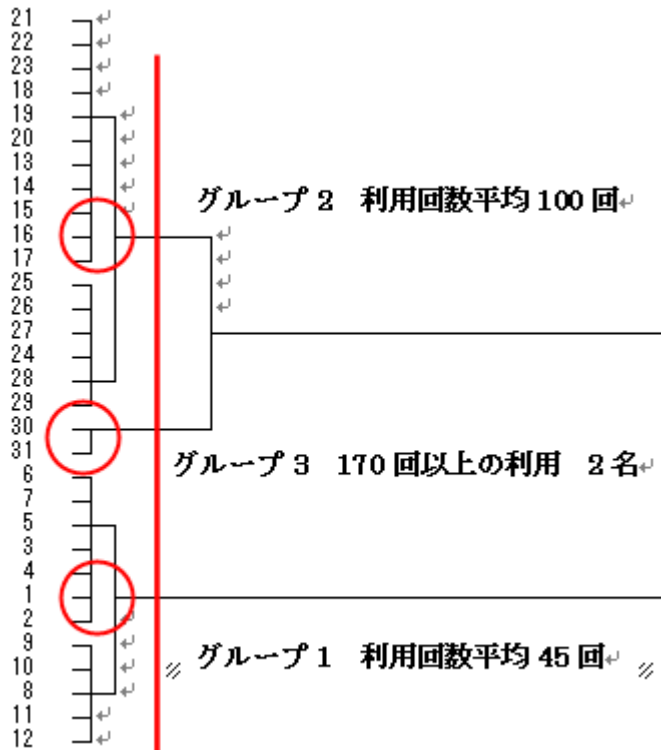
## • アンケート

- 担当教師へのアンケート
  - 個々の学習者の通常の学習状況についての所見

# 利用評価—利用回数と教師の所見

- 利用回数の分析

クラスター分析により3グループに分類



- 教師の所見(成績)と利用回数の相関

- 判明できない3名を除く

- 成績と利用回数に高い相関
  - グループ1 → 「**適当組**」
  - グループ2 → 「**積極組**」
- グループ3 → 「**留年と2/3**」

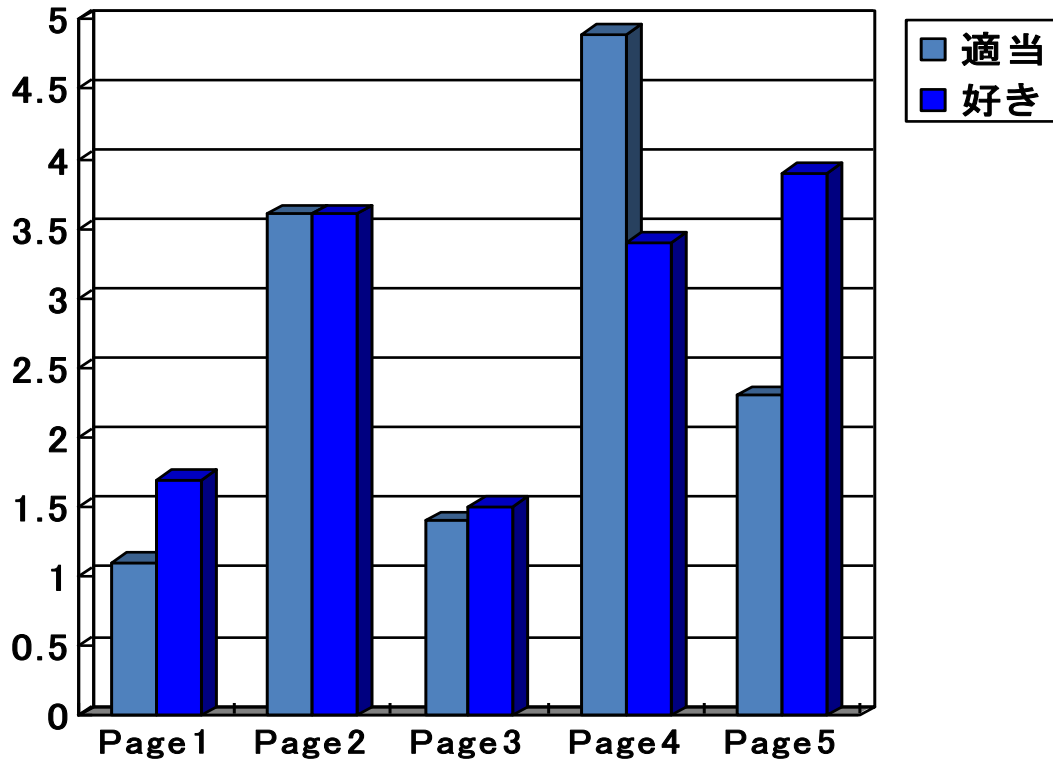
	成績	
	上位	下位
グループ1	1	6
グループ2	13	5



# 教材利用状況一

「聞く・話す」各ページの平均利用時間(分)

各ページの利用平均時間(分)



Page1 好き組 > 適当組 (\*\*)  
Page2 同じ  
Page3 同じ  
Page4 適当組 > 好き組 (\*\*)  
Page5 好き組 > 適当組 (\*\*)  
\*\*1%有意

「適当組」は、文字が出るページに時間をかけるのに対し、「積極組」は、会話の聞き取り、発話に時間をかける。

# 日台遠隔協働授業

## ▶ 目的

- インターネットをコミュニケーションのツールとして利用し、お互いの学習言語と母語で、対等な立場でのコミュニケーション環境を構築し、お互いに言語を学びあう場を実現すること

## ▶ その実現

- 台湾の日本語学習者と日本の中国語学習者同じ時間帯に講義を開催、同時間で授業開催

## ▶ 活動方針

### 構成主義学習理論の教授上の留意点

まちがうことを尊重

探索することを奨励

学習者の相互のやりとりを促す

教師の役割は援助であり、学習者自らが知識を構成していくのを「助け」こと

# 日台遠隔協働授業

- 2007年から2012年まで6年間実施
  - 台湾側日本語専攻学生 07年4年生前期・以後3年生前期
  - 日本側中国語専攻学生 3年生第後期学生
  - 同じ曜日・同じ時間帯で両側授業開催
    - 日本側→2限(日本時間10:40-12:10)
    - 台湾側→3・4限(日本時間11:10-13:00)
      - 1時間の重複時間
- 本発表
  - 2007年と2009年の活動内容の紹介
  - アンケート調査による評価結果

# 2007年の活動概要

- 3週で特定のテーマによる

- 「発表準備」

- テーマ内容の討論と準備

テーマの決定は、大枠の中で自由に選択

- 「インターネット接続」

- ビデオ会議システムによる発表

- 台湾側日本語・日本側中国語での発表と質疑応答

- テレビ電話(SKYPE)による討論・「内容の反省」

- 日本と中国語による少人数での発表内容と討論

- なお、テレビ電話の内容が録音され、ディクテーション課題として

- 「内容の反省」

- インターネット接続の内容の反省

- 2007年では、4ターン施行

# 2007年 授業時間とその内容

日期	活動内容	課題
10/4	オリエンテーション・グループ分け テーマ: 自己紹介や大学紹介、学校所在地を紹介 発表者の決定・プレゼンテーションの準備	発表内容練習
10/11	全員の自己紹介	大学紹介の発表内容 のディクテー ション
	ビデオ会議室システムによる発表: 大学紹介	
	終了後の作業: 会話のディクテーション(中国語・日本語)	
10/18	ディクテーションした内容でクラス全員で一緒に振りかえる	
10/25	グループディスカッション テーマ: 食文化 プレゼンテーションの準備	料理作りの録音・ ディクテーション 課題1回目
11/1	ビデオ会議室システムによる発表(発表者)	Skype会話のディク テーション
	Skypeによる1対1会話および録音・テーマ: 食文化	
	終了後の作業: 会話のディクテーション(中国語・日本語)	
11/8	クラス全員でディクテーションした内容をE-learning上に公開 し、お互い添削 <small>国際日本研究センター シンポジウム</small>	料理作りの録音・ ディクテーション 課題2回目 <small>14</small>

# 発表テーマ

- 1回目 大学紹介
  - 台湾側：淡水紹介      日本側：東外大紹介
- 2回目 食文化
  - 台湾→淡水小吃・日本→広島焼
- 3回目 交通
  - 台湾→雪山隧道・日本→東京交通情况
- 4回目 ディベート
  - 中国語で「小学生の携帯電話利用」について
  - 日本語で「高校の校則の是非」

# パワーポイントによる発表風景



## 発表後の質問応答時間



## テレビ電話の利用接続

- 1対1か、少数人数での討論
- 発表した内容を中心とした内容
- 最初だけ、必ず用意した内容で説明。
  - お好み焼きのつくり方などは用意した内容で



実際に利用したSkypeによる1対1会話の画面



# E-learningシステムによるディクテーション(授業成績評価として)

## 日本人学生のディクテーション内容

北川絃子

J: 你現在住在宿舍嗎?

T: 外墅.

J: 外墅.

T: 外墅就是住在外面. 不是住宿舍.

J: 為什麼不在...

T: 不住宿舍嗎? 因為我不喜歡跟人家一起住. 一人暮らししたい. 我喜歡.

J: 那你的家鄉在哪裡?

T: 家鄉, 屏東. 台湾の最南、最南部.

J: 我去過墾丁.

T: 墾丁好玩嗎?

J: 很貴. 還有我不會騎摩托車, 所以我覺得交通不方便.

T: 不方便, 對不對? 比較會急.

J: 我們要坐公車的時候, 我們等了三十到一個小時. 三十分鐘到一個小時的時間.

T: 要很久, 其實墾丁離屏東市區還滿遠的. (聽不懂) 起碼

林億珊

## 台湾人学生の添削結果

T: 淡江大學的什麼, 食堂, 明明就很難吃.

J: 那你, 妳現在住在, 在宿舍嗎.

J: 外宿, 喔.

T: 外宿, 就是住在外面.

J: 為什麼不在、嗯...

T: 宿舍嗎.

(聽不清楚)

J: 那你的, 你的家鄉在哪裡.

(聽不清楚)

J: 嗯, 我去過墾丁. 墾丁, 嗯, 很熱. 還有我不會騎摩托車, 所以, 我覺得嗯, 交通很不方便.

(聽不清楚)

J: 嗯... 我們要坐, 坐公車的時候, 我們等了30到1個小時, 30分鐘到1個小時的時間.

訂正: 30分鐘到1個小時, 不用加上時間.

T: 要很久, 要很久. 其實墾丁還, 離屏東市區還蠻遠的. 我家也超遠的.

# 2009年活動概要

- 日・台独自チームと混合チームの編成によるグループ活動が中心
  - アンケート調査
    - テーマを決定し、日本人と相手ともアンケートを採取
  - アンケート内容によるレポート作成
    - 異文化対照レポート
  - 作成したレポートのお互いの添削
    - レポート内容をe-Learningシステム上に公開
  - レポート内容に基づき、発表

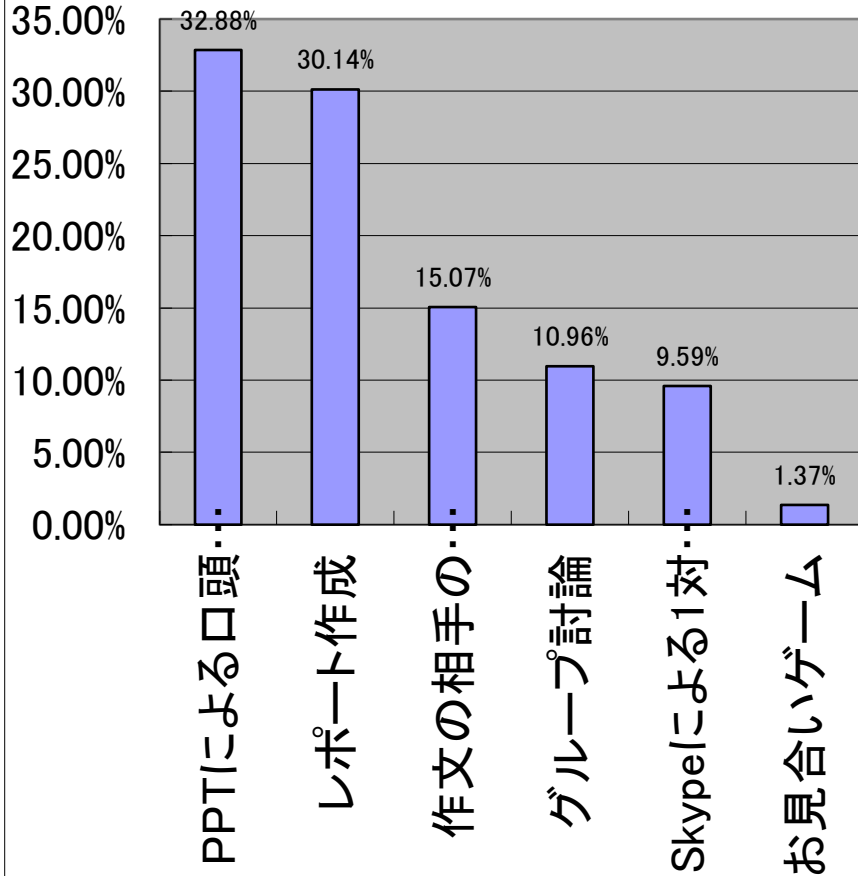
# 2009年授業後アンケート調査

満点5

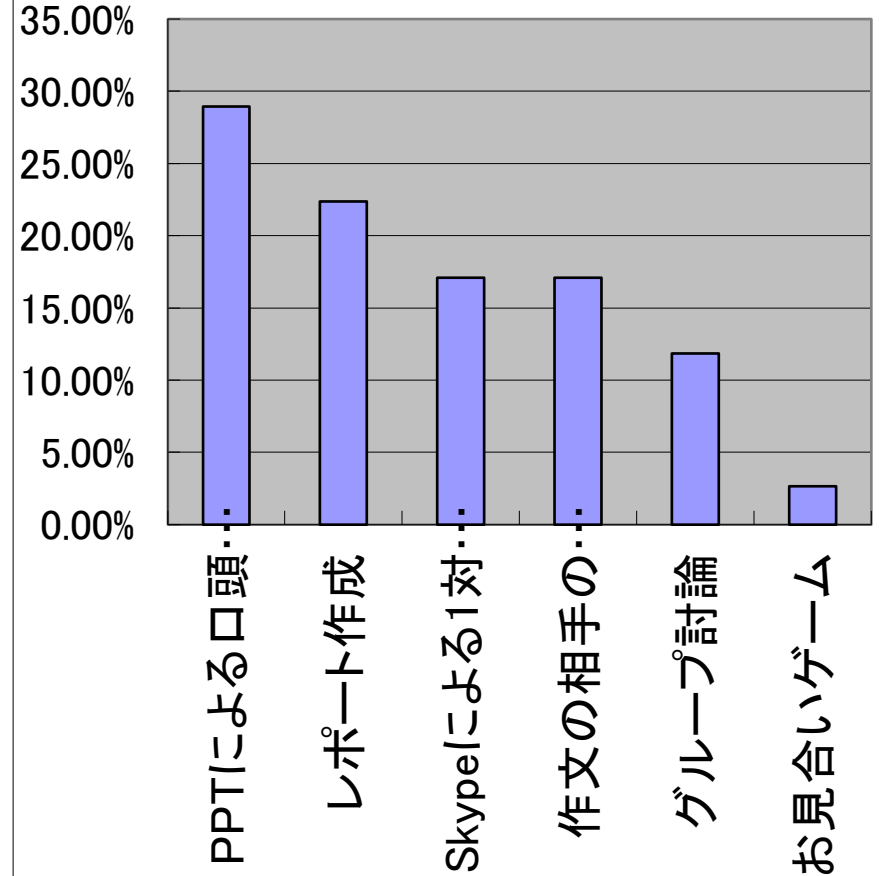
	質問内容	評点
1	授業に熱心に参加した。	4.13
2	学習言語への興味が前より増した。	3.83
3	相手の国についてもっと理解したいと思う。	4.17
4	語学の授業をもっと頑張ろうと思った。	3.79
5	自分の語学の勉強に参考となる授業である。	4.27
6	リスニング能力が向上した。	4.00
7	文法力が向上した。	3.51
8	日本語の語彙数が増えた。	3.95
9	スピーキング能力が向上した。	3.92
10	ライティング能力が向上した。	4.03
11	自分の語学力の向上に役に立った。	4.13

# ちなみに

## 一番大変だった活動



## 一番役に立った活動



# インターネットを用いた日本語教授法

- 2012年により、本学大学院日本語教育専修コースで開催
  - 日本側に与える課題
    - 学習者ニーズ分析・教案作成
    - 台湾学生の誤用観察
    - コミュニカティブアプローチの観察
  - 臺灣側学生に与える課題
    - インタビュー調査・レポート作成(添削)・発表
    - (コミュニカティブアプローチを中心)

# インターネットによる言語学習・教育

- 言語学習の目的をコミュニケーションとすると
  - コミュニケーション達成のための言語教育
  - 教材作成と提供
    - 電子教材の作成手法・LMSによる教育手法
  - リアルタイムによる言語学習利用
    - 物理の距離を超えたコミュニケーションで直接その言葉と触れ合い可能
    - そのコミュニケーション達成のための言語学習・教育手法